

AMDA

多様性の共存

ジャーナル

2015年
冬号



2015年1月25日 VOL.38 第272号 定価550円
発行/AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1
TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
E-mail:member@amda.or.jp
郵便振替:01250-2-40709 □口座名:特定非営利活動法人アムダ

認定 特定非営利活動法人アムダ (AMDA)
http://amda.or.jp/
特定非営利活動法人AMDA 社会開発機構
http://www.amda-minds.org/
特定非営利活動法人AMDA 国際医療情報センター
http://amda-imic.com/

2015年の年頭にあたり

AMDA 理事長 成澤 貴子

2015年も緊急救援で幕があげました。年末に東南アジアの複数の国々で低気圧の影響による洪水被害が発生し、1月1日に柴田看護師と大政調整員が関西国際空港からマレーシアに向かいました。10年前の12月26日にはスマトラ沖地震津波が発生し、AMDAはインドネシア、インド、スリランカの3か国の各複数の被災地域で同時に活動を実施しました。災害は休みの期間や週末、そして寒い時期に起こることが多いように思います。



AMDAでは昨年より南海トラフ対応準備を開始しています。東北の被災地の様々な避難所での多岐にわたる活動の経験から学んだことをいかし、そして何より、避難所生活が何たるかを最もよく知る実際に避難所生活を体験された方々とともに活動することで、災害被災者の方々に更に寄り添う支援にしていきたいと考えております。

AMDA設立31年を迎えました。直接間接にこれまで多くの方々のご協力のお蔭をもって活動を続けてまいりました。これまでの経験を社会に還元していくことがAMDAの責務と考えております。その一つの具体的な形が人財育成事業です。海外でも岡山でも様々な形で展開してまいります。お心を寄せていただければ幸いです。

本年もよろしくお願い申し上げます。

救える命があればどこへでも

2015年新春の挨拶

AMDA グループ代表 菅波 茂

新春のお喜びを申し上げます。
本年もよろしくお願い申し上げます。

クアラルンプールに事務所を設置して、初めての年越しを迎えました。AMDA30年間の実績に基づき、本年から3ヶ年計画でGPSP世界平和パートナーシップ構想の4分野10事業の具現化に向けて頑張ります。世界平和に必要な多様性の共存を実現する中核のコンセプトである「開かれた相互扶助」の啓蒙普及です。GPSP事務所inクアラルンプール

が拠点となります。GPSP構想に参加するAMDA支部及び提携団体のネットワーク力の強化がすべてを決めます。

一方、来たるべき南海トラフ地震対応プログラムの準備も着々と進めています。第一の対象は高知県や徳島県などの四国です。同時に京阪神の被災地も視野に入れています。阪

神淡路大震災や東日本大震災と決定的に異なることは大規模にして広範囲な災害になることが予想されます。日本国内だけでは対応できずに、海外との連携軸が不可欠という視点です。GPSP世界平和パートナーシップ構想と南海トラフ対応プログラムは一对と考えていただければ幸いです。「備えあれば憂いなし」ではなく、「憂いなくして備えなし」です。

GPSP世界平和パートナーシップ構想のもう一つの大きな事業がグローバル人財育成プログラムです。日本を担う次世代の教育です。AMDAは日本発のNPOとして2006年に最初の国連経済社会理事会総合協議資格団体として認められました。AMDA自体をモデルとした人財育成プログラムを提携団体と作成しています。ご期待ください。

本年も皆様方のご理解と暖かいご支援がいただければ望外の喜びです。

AMDA・高知県 大規模災害時の支援に 関する協定締結

12月26日、高知県とAMDAとの大規模災害時の支援に関する協定締結式が、高知県庁にて執り行われました。調印式にはAMDAグループ代表 菅波茂と高知県知事尾崎正直氏が出席し、今後に向けた協力などについても話し合いました。



調印式の様子 写真左から尾崎高知県知事とAMDAグループ代表菅波

AMDA鎌倉クラブ チャリティーコンサート開催

AMDA鎌倉クラブ設立15周年記念のチャリティーコンサートが2014年11月15日に鎌倉芸術館で開催されました。16年続いたチャリティーコンサートも、今回で最終回ということで、会場にAMDAグループ代表、AMDA理事長もお伺いし、これまでの継続的な開催とご支援に改めて感謝をお伝えしました。



コンサートの様子

被災地間相互交流事業 第8回復興グルメF-1大会 in 相馬 開催

復興支援事業の一つとして「被災地間相互交流」のコンセプトをもとに行っている「復興グルメF-1大会」。2013年1月にスタートし、第8回大会が福島県相馬市の相馬市市民のひろばを会場に11月2日(日)に開催されました。(主催:第8回復興グルメF-1大会実行委員会、復興グルメF-1運営事務局、後援:AMDAほか)

本大会は、東北沿岸部一帯の商店街などが復興に向けて一丸となり、東北の現状及び情報を全国的に発信し、さらに情報や知恵を共有することで、新たな復興への協力体制を形成することを目的としています。各地域特色のある「復興グルメ」を考案し、来場者による投票で「復興グルメ」のナンバーワンを決定します。



6,500人が詰めかけた会場の様子

11月2日の大会当日は晴天に恵まれ、約6500人の方々が相馬市内外から来場し笑顔あふれる大会となりました。

福島県での大会開催は南相馬市で開催された第5回大会につづき2回目。岩手県、宮城県、福島県の10地域16チームが参加し、絶品グルメで大会を盛り上げました。開催前から多くの方が来場し、各参加チームの代表者による大会前の意気込みや本大会に寄せる思いを聞くことが出来、参加者を身近に感じる大会でした。

また、地元相馬のYOSAKOIなどのイベントや各地域のゆるキャラが会場を盛り上げました。

優勝したのは福島県相馬市のNo Donco No Soma「どんこ肝つみれ汁」、次いで2位は宮城県石巻市鮎川浜「牡蠣の、おい!おいスターだ〜!」、3位



大会を盛り上げた出店者、ボランティアの皆さんで記念撮影

は宮城県南三陸町志津川のタブの木漁協直販所「南三陸ほたて丸ごと1枚&タコのみれ団子汁」でした。

次回、第9回復興グルメF-1大会は岩手県大槌町での開催を予定しています。たくさんのご来場をお待ちしております!

第9回復興グルメF-1大会

たくさんのご来場をお待ちしております。

開催日: 4月12日(日)

投票: 11時~14時

会場: 大槌きらり幸福商店街

東北復興支援ボランティアバス 第6弾 岩手県大槌町

お席に限りがあります。定員になり次第締め切りますのでお申込みはお早めに。

日程: 4月10~13日

参加費: 大人20,000円(会員18,000円)

学生15,000円

定員: 40人

スケジュール概要

(変更の可能性あります)

4/10	19:00 岡山駅出発 車中泊
4/11	13:00 岩手県大槌町到着 被災地見学、大会準備 研修、懇親会 宿泊施設泊
4/12	07:30 大会運営手洗い 16:00 大槌町出発 車中泊
4/13	09:30 岡山到着

楽しかった!」「自分もチームの一員として扱って下さり、被災地がすごく身近に感じられた」「風評被害の深刻さを感じる場面もあったが、若い方が前を向いて頑張っておられる姿に自分も、頑張らなくてはと思った」などの感想があげられました。

岡山からの東北復興支援ボランティアバス 第5弾運行

多くの方に、東日本の被災地に気軽に足を運んでいただき、被災地の現状を知っていただくため、また岡山から東北への支援メッセージを届ける意味も込めて、2013年10月から「復興グルメF-1大会」の開催に合わせて、岡山から開催地へボランティアバスを運行しており、これまでに南三陸町(宮城県)、南相馬市(福島)、七が浜町(宮城県)、陸前高田市(岩手県)に向けて運行しました。



大会当日 出店ブースをお手伝い 一緒に完売を喜んだ

10月31日の午後8時に岡山を出発した一行は、車中泊を経て11月1日、福島県相馬市に到着しました。今回は中校生から60代の方まで、参加年齢層も幅広く、現地合流の方も含めると、38名が参加しました。

到着後は、相馬市原釜地区の区長さんのお話を昼食時にお聞きし、その後バスで被災地の見学。地元の方々の案内により実際に津波が到達した地域の

見学のほか、現在の漁業の現状や、農業の現状など若い方が風評被害の払しょくに取り組む姿を拝見することができました。見学後には、AMDAのスタッフと、復興グルメF-1運営事務局員による研修会を実施し、F-1大会の意義などを再認識しました。

この後、翌日の大会の準備を行い、夕食はボランティアの方々のほか、地元の方、またF-1大会参加者など多くの方を交えての交流会となりました。

大会当日、参加者たちは、各ブースの手伝いをし、チームの一員として大きな声で呼び込みを行ったり、笑顔でグルメを手渡したりとあっという間に終了の時間となりました。

達成感に満たされた顔で、バスに乗り込んだ参加者の方からは「初めてのボランティアで緊張したけど、本当に

福島県南相馬市産米「天のつぶ」購入支援と第2回食糧と人道支援シンポジウム
「風評被害からの復興～起こりうる南海トラフ地震津波に向けて～」開催報告

東日本大震災の復興支援の一環として「風評被害からの復興」への取り組みを行っています。その一つとして、「復興グルメF-1大会」を通じて、つながりが深まった福島県南相馬市のお米「天のつぶ」の共同購入の呼びかけと運搬費用の支援を実施しました。支援者の



南相馬からの
お米が手渡
された写真左から
早瀬川 成澤理事
会長

皆様の協力のもと1.5トンを超える注文が集まり、2014年秋に収穫された新米が、放射能検査を経て、AMDA事務所や各支援者の方々に届けられました。

さらに、12月6日には「第2回食糧と人道支援シンポジウム 風評被害からの復興～起こりうる南海トラフ地震津波に向けて～」を開催しました。この会には、福島県南相馬市役所から立谷誠浩氏と南相馬市鹿島区認定農業者経営改善研究会会長の早瀬川浩一氏をお招きして、南相馬の抱える現状や復興に向けた課題をお話いただきました。さらに、ディスカッションの時間には、農家の方が直面している状況を共有頂



シンポジウムの様子

きました。会場は60人を超える方がお越しくださり、参加者からは「福島県の現状を直接聞くことのできる貴重な会だった」「身近な『食』と『風評被害』について改めて考えさせられた」「南海トラフ地震に向けた課題を感じた」と感想をいただきました。

AMDA・華蔵寺東日本大震災3か年合同支援プログラム 第3回高野山参拝
AMDA大槌クラブ 松原清氏からの手紙「高野山・歩き遍路参拝に参加して」

東日本大震災の復興支援事業の一つとして、華蔵寺（岡山県美咲町）との合同支援プログラムを2012年7月から実施しています。2012年7月には岩手県大槌町から高校生、宗教者の方などを岡山にお招きして、交流事業を行いました。2013年には岡山から華蔵寺のご住職ほか数名の宗教者の方が被災地を訪れ、被災地の方々との交流などを行いました。

そして3年目となる本年は、11月22、23日の2日間で大槌町から2名を招へいし、岡山の方々と一緒に、高野山への登山、参拝などを行い、交流を深めました。このプログラム

に岩手県大槌町から参加した松原清氏からお手紙が届きましたので、以下に抜粋して紹介させていただきます。

なお、松原氏は、震災直後の大槌町の避難所で、町内会の役員として避難所の運営の中心的な存在として活躍され、AMDAの医療チームの受け入れにもご協力くださいました。またAMDA大槌クラブのメンバーとして、現在も復興支援活動にご協力いただいております。

私たち夫婦は、平成26年11月22日から23日の一泊二日の日程で高野山・歩き遍路参拝に行ってきました。

岡山・華蔵寺からの一行と慈尊院で落ち合い、9時に登山を開始しました。風雨にさらされた道を通り過ぎるたびに霊気を感じ、大師様が歩いたこの道を今こうして、自分の足で歩き辿っていることに感慨深い気持ちになりました。上り下りを何度も繰り返し、ようやく高野山の大門に到着したときには達成感が胸がいっぱいになりました。

宿坊での夕食。お坊さんたちが作った精進料理は格別においしく、残さずいただきました。夕食後は写経です。

写経は初めてであり、手を震わせながらもなんとか書き終えました。翌朝の、朝食前の勤行も初めての体験でした。和尚さんたちの読経が始まると、本堂内に野太い声が響き渡り始めました。腹の心底に伝わり何とも言えない雰囲気となり、震災でくすぶっていた心の奥底を、きっぱりと清められたような、



写真左から松原清氏、奥様
AMDA竹谷和子



参加者全員での記念撮影

そんな心境になりました。

総本山・金剛峯寺での閉会式では、厳粛な中、写経奉納式、相伝寺子屋・遍路修行終了証の授与式があり、自分たちも過分に気づき恐縮の限りです。

最後に焼香をしました。諸々のお礼と東日本大震災で犠牲になったの方々のご供養と大槌町の一日も早い復興を願いつつ…。

震災は悲しい出来事ではありましたが、震災が沢山のご縁をもたらして下さいました。今後もこのご縁を大切にしていきたいと思っております。

今回の行事絵の参加は、自分たち夫婦にとって生涯忘れ得ぬ宝物となりました。また華蔵寺・阿形ご住職にも大変お世話になりました。改めて感謝申し上げます。

第2回被災地間相互交流公開フォーラム～南海トラフ地震にそなえて～
東北・四国災害相互支援ネットワーク構築プログラム 開催のお知らせ

東日本大震災の被災地の仮設商店街や地域のリーダーの方、および今後起こりうる南海トラフ地震で被害が想定される四国（高知、徳島）地域の自治体の方が一堂に会し、経験や知恵を共有し、将来に備えた具体的なディスカッションを行います。大変貴重な機会となります。参加費は無料。たくさんのご来場をお待ちしております。

【日時】2015年2月1日（日） 13:15～
【会場】岡山国際交流センター 8F イベントホール

連載インタビュー「支える喜び」シリーズ

第3回 ラシャド ファラ 様、多津子様 ご夫妻

(ジブチ共和国大統領特別顧問 国連大使 前駐仏・駐日ジブチ共和国全権大使)

AMDA ジャーナル 2014 年夏号から連載をスタートさせたインタビューシリーズ「支える喜び」。第3回目となる今回は、AMDA 創立周年 30 記念式典に遠路はるばるご出席くださいましたファラご夫妻にお話を伺いました。

ジブチの状況を救ってくれた AMDA との出会い

AMDA: 本日は遠方から、この日のために来日していただいたとお聞きしております。本当にありがとうございます。

ファラ: 皆様と御一緒に AMDA 創立 30 周年記念式典に臨めます事は、大変名誉な事であり、この上無い喜びでもあります。心からのお祝いを申し上げます。

AMDA: さて、AMDA との出逢いについては、奥様を通して伺っております。

ファラ: そうです。初めて菅波先生に成田空港でお目に掛かったのは 1992 年のことですから、早 22 年になります。当時のアフリカ大陸では、ベルリンの壁崩壊後のアフロペシズム（アフリカ悲観主義）の大きな波に直面しており、多くの紛争がありました。AMDA の設立前から菅波代表の活動を応援して来た妻の勧めで、私は海外出張から帰国したばかりの菅波代表に近隣のエチオピア、ソマリアから内戦を逃れジブチに押し寄せて来た難民の窮状、医療支援の必要性を訴えました。



ファラ駐日ジブチ全権大使、ジブチ厚生大臣らと4か国からの AMDA 多国籍医師団ソマリア難民医療救援チーム一団

菅波代表は、その状況を瞬時に理解され、敏速にプロジェクトの準備に取り掛かって下さり、数か月後には、スタッフを連れてジブチに来てくださいました。

AMDA ジブチ事務所の設置と 国家勲章オフィシエ章（勲4等）

AMDA: 確か AMDA ジブチ事務所が設立されたのが 1993 年。それ以降、ジブチ事務所を拠点に、ソマリア、スーダン、ケニア、ルワンダでの活動を展開することができました。

ファラ: ジブチでは、人里離れた地域で、苛酷な環境の中、AMDA の医師、看護師、コーディネーターなど、多くの方々が身を賭して懸命に働き、尽力したことを良く知っています。だからこそこの事実を知ったジブチ大統領は、2011 年に国家勲章オフィシエ章（勲4等）を菅波代表に授与しました。

ブトロス ガリ賞受賞と 国連経済社会理事会の資格取得へ

AMDA: そうでしたね。日本人で初めてということもあり、本当に光栄に思っております。

ファラ: また、私たち夫妻は、AMDA のために国連で尽力したいとも考えました。実際ニューヨークの国連本部に行き、スーダンやパキスタンの国連大使と会いました。皆 AMDA の事を知っていました。そしてこれがきっかけとなり、1995 年に菅波先生は元国連事務総長 ブトロス ガリ賞を受賞し、その後 AMDA の国連経済社会理事会の NGO 特殊協議資格取得にもつながりました。

AMDA: お蔭様でこの後、2006 年に総合協議資格に昇格いたしました。お二人はまさに AMDA の水先案内人ですね。



30 周年式典の会場で菅波代表と

平和への鍵、次世代を担う人々への 「教育」と「開かれた相互扶助」

ファラ: 本日の 4 時間にわたる式典に出席して素晴らしいと思ったことは、この会場の雰囲気が多くの人たちの結束、友情、相互理解による喜びにあふれていたこと、そして何より菅波代表が将来構想として AMDA を教育のツールとして考えていらっしゃることでした。



ラシャド ファラ氏と多津子様

AMDA: はい、これまでの経験を次世代の教育として活かして行きたいと考えています。

ファラ: 素晴らしいですね。教育は絶対に必要です。教育なくして、国際社会への寛容さを生み出すことはできません。他者を受け入れることもできません。戦争、紛争、貧困で多くの世代を失いました。実際、アフリカでは 15 分ごとに 300 人をのせた飛行機が墜落しているようなものです。多くの若い世代が飢餓、貧困で亡くなっています。これらの問題を解決する持続可能なシステムは「教育」でしょう。

多津子: 主人が仕事をしていた UNESCO でも教育を第一に訴えてきましたよね。

ファラ: 教育、特に女性への教育無しには、成熟した社会の実現は難しい。女性は、人として大切なメッセージを次の世代に伝授できます。母親は、赤ちゃんにとって、最初の先生だからです。また、その他にも、AMDA の理念である『オープン 相互扶助』は素晴らしい考え方であり、21 世紀をリードする最も重要な理念として、世界の様々な問題を解決して行くこと確信しています。

AMDA: AMDA の国際社会への最初の扉をひらいてくださったのは、ファラご夫妻なのですね。

ファラ: これは菅波先生が、私の妻をそして私を信頼して下さったからです。これからも AMDA を支えていきたいと思えます。これからも AMDA が、国際社会で素晴らしい仕事をしていることを AMDA の支援者の方々に自信をもってお伝えしたいと思います。AMDA への寄附が大きなメッセージをもって、役立てられていることを、様々な国で私自身が見てきましたから。

AMDA: 本日はお疲れのところ本当にありがとうございました。

東南アジア洪水被災者に対する緊急医療支援活動～マレーシア北部洪水支援～



支援物資を手渡す大政調整員

12月末に東南アジアを襲った低気圧により、マレー半島東海岸の5州16市町村に大規模な洪水が発生しました。死者16人、被災世帯は11311世帯、避難者数は最大16万人近くに達しました。(マレーシア首相府国家安全保障会議発表)

この状況を受け、AMDAでは医療チームを1月1日に被災地に向けて派遣。同日クアラルンプールに到着し、現地協力団体のNGO マーシーマレーシアと合流。情報共有および今後の活動についての打ち合わせを行いました。

3日の早朝には被害の大きかったクランタン州の州都・コタバル市に到着。マーシーマレーシアのメンバーとともに荷物の積み込みを行い、被災地クアラクラライ郡ベコック村とトゥアラン村へ陸路で移動しました。水は引いているものの、泥が濁ってほこりに覆われた町の様でした。

事前のニーズ調査の結果を受け、被災地で最も必要とされている支援物資として、手押し車、シャベル、デッキブラシ2種類、水きり、ほうき、マスク、軍手、バケツを1セットとした掃除セットを30世帯に配布することができました。

4日にはマーシーマレーシアの医療チームとともに、トゥンパツ郡コクパシール村で巡回診療を実施しました。コクパシール通りにテントを設置して始まった巡回診療では、113人の診療を実施。主な症状としては、皮膚疾患、腰痛、高血圧症がみられました。診察を受けた患者らは、処方薬を手にし、AMDA医療チームに対し「遠い日本から、来てくれてありがとう」など、それぞれ感謝の言葉をかけてくださいました。

マーシーマレーシアによると、今回の災害に対して支援に入っている団体としてはAMDAが唯一の日本のNGO。

AMDA医療チームは5日未明に被災



巡回診療を行う柴田看護師

地を後にし、マーシーマレーシアと連絡を取りながら、今後の状況を注視していきます。

【派遣者プロフィール】

大政朋子：GPSP クアラルンプール事務所長/調整員

柴田 幸江：看護師/兵庫県在住

【現地協力団体】

マーシーマレーシア (MERCY Malaysia)



トルコ 無料歯科診療プログラム 入歯提供と歯科衛生指導を実施

2014年11月、台湾保健省国際協力機関である台湾IHAとAMDAの合同事業としてトルコ東部の都市ハッカリで無料歯科診療プログラムを実施しました。

プログラムを実施したハッカリは、トルコの南東部に位置し、イランとイラクの国境近くに位置しており、2011年10月に発生したトルコ東部地震の被災地の近く。AMDAは支援活動後の復興支援の際に訪れており、その際から学生の交流など支援活動を続けていました。



入歯制作のための歯科検診

事前調査により、最低限の生活をしている人たちが多く住んでおり、この地域における人々の歯の健康状態に問題があることが分かったことから、歯科医療プログラムを行うことを決定しました。

2014年11月13日から15日までの3日間で「入れ歯の提供」と、「歯科衛生教育」を実施。入れ歯の提供は、現地歯科医師とそのスタッフによって行われ、歯科衛生教育も現地の歯科技師協力の下、現地の小学校で行われました。入れ歯を購入することができない9人が、地域の中から選ばれ、3日間にわたって、相談、歯削り、測量、型取り、という過程を経て入れ歯を作成しました。入れ歯を作成した患者からは「このような治療費を払うことはできない、再度食べ物を噛み締め、味わうことができるのは嬉しい」などと、感謝の言葉を頂きました。

また歯科衛生教育は、11月14日、ハッカリから車で40分の場所に位置す



子どもたちに歯磨き方法を伝える様子

るドウランカヤ村にある小学校で実施しました。この小学校には5歳から11歳の子供93人が通っており、この小学校でこのようなプログラムが実施されるのは初めてでした。児童たちの衛生教育のために訪れた合同医療チームに、教師や保護者から感謝の言葉がかけられました。歯磨きの重要性と、歯磨き指導などの歯科衛生教育を行い、活動の最後には、一人ひとりに対して歯ブラシと歯磨き粉のセットが配られました。

2014年10月～12月の動き

＜講演＞	内容	主催
10月23日	西日本仏教青年連絡協議会研修会「AMDA概要」	西日本仏教青年連絡協議会
10月25日	第36回日本アーユルヴェーダ学会倉敷研究総会 招待講演「AMDAの活動を通じてみえるもの」	日本アーユルヴェーダ学会
10月25日	花園地方大会 講演「大災害時における寺院の役割」	国清寺
10月25日	第18回へき地離島救急医療学会 学術集会 in 徳島 一般演題「国際医療活動団体による 災害医療支援」	へき地離島救急医療学会
11月7日	第305回川崎医学会講演会「災害支援のありかた～AMDAの活動を通じて～」	川崎医科大学
11月14日	グローバル社会で活躍する人材となるために	岡山県立岡山操山中学校
11月18日	世界で活躍する人となるために－国際協力とAMDA－	岡山市立芳田小学校
11月20日	国際看護学と災害看護学	倉敷翠松高等学校
11月28日	災害看護について理解を深めると共にナースの役割を学ぶ	岡山県立倉敷中央高等学校専攻科
12月2日	バンガラデシュガッチョハイス쿨の現状や今後の交流の在り方	玉野市立東兎中学校
12月5日	津山ロータリークラブ例会 卓話「AMDAの活動を通じてみえるもの」	国際ロータリー第2690地区 津山ロータリークラブ
＜大学講義＞	内容	学校名
10月3日	国際看護学授業	四国医療専門学校 看護学科
10月6日、9日、14日、16日、21日、23日、12月4日	医療経済学講義	岡山・建部 医療福祉専門学校
10月9日	災害看護	相生市看護専門学校
11月13日、20日、27日、12月4日、11日、18日、20日	国際援助と保健資源	福山平成大学看護学部
11月29日	国際関係論（看護の国際協力）	福山市医師会看護専門学校
12月1日	AMDAの活動の考え方や実際の状況	岡山大学法学部
12月9日	双方向ライブ型オムニバス授業 ボランティア論 第11回「東日本大震災復興ボランティア」	大学コンソーシアム岡山
12月12日	AMDAの立ち上げから現在まで、その理念と活動の実際	岡山大学医学部保健学科看護学専攻
＜イベント開催および参加、協力＞	内容	主催
10月1日～10月3日	岡山発国際貢献活動写真展（主催：岡山発国際貢献推進協議会）	
10月4日	第2回国際医療貢献フォーラム（主催：岡山県、AMDA）	
10月8日～13日	備芸会展 AMDA パネル展（主催：備芸会）	
10月11日、12日	旧大國家住宅一般公開 AMDA パネル展（主催：一般財団法人大國家）	
10月11日	AMDA フードプログラム 野土路農場（新庄村）収穫祭（主催：AMDA）	
11月2日	第8回復興グルメF-1大会（主催：第8回復興グルメF-1大会実行委員会、復興グルメF-1運営事務局）	
10月31日	フィリピン農業研修生報告会およびお別れ会（主催：新庄村アジア有機農業連携活動推進協議会）	
10月31日～11月3日	復興グルメF-1大会ボランティアバス for 福島県相馬市（主催：AMDA）	
11月9日	総社市防災訓練（主催：総社市）	
11月11日～13日	招き猫美術館開館二十周年感謝祭 AMDA アートパザール（主催：招き猫美術館）	
11月12日	おかやま国際塾 第4期生活動報告会（共催：岡山大学法学部、就実大学薬学部学生有志、AMDA）	
11月15日	チャリティーコンサート Vol.16 東日本大震災復興支援 絆Ⅲ kizuna（主催：AMD A 鎌倉クラブ）	
11月16日	第12回一宮わくわくふれあい広場（主催：社会福祉法人金曜会わくわくワーク）	
11月22日～11月24日	第13回小春日和の書展 AMDA パネル展（主催：松壽書院）	
11月23日	フィリピン台風30号被災地復興支援チャリティ オープエトマリンバでいい曲いろいろコンサート ～「ありがとう」を音に込めて（主催：やかけ町屋交流館）	
11月23日	第3回AMDA・華蔵寺 東日本大震災3か年合同支援プログラム 第3回高野山参拝	
11月30日	入江洋文、西牧尚子 ～東日本大震災被災者支援～チャリティーコンサート vol.4（主催：入江洋文、西牧尚子、共催：AMDA）	
11月30日	AMDA 設立30周年を祝う会（主催：AMDA 設立30周年を祝う会事務局）	
12月6日	食糧と人道支援シンポジウム 第2回テーマ：「風評被害からの復興」開催のお知らせ～起こりうる南海トラフ地震津波に向けて～（主催：AMDA）	
12月18日	第2回おかやま教育支援活動メニューフェア兼倉敷生涯学習研修会（主催：岡山県教育委員会・倉敷市教育委員会）	
12月22日	インドネシア農業技術者派遣報告会（主催：新庄村アジア有機農業連携活動推進協議会、AMDA）	
＜職場体験＞		
11月11日～11月14日	チャレンジワーク（職場体験）	岡山県立岡山大安寺中等教育学校
＜AMDA 高校生会活動＞		
10月26日、11月24日、12月21日	高校生会定例会	

AMDA フードプログラム

「食は命の源」をコンセプトとして行っている「アムダフードプログラム」は、2012 年から岡山県北にある新庄村の野土路（のどろ）地区に農場を構え、スタートしました。これまでに AMDA は海外で実施してきた様々な医療支援活動を通じ、「安全、安心な食」が健康な体を作るだけでなく、「安全、安心な食」には付加価値が付き、貧困地域の生活向上、労働意欲の向上につながることに着目。本プログラムを通じてアジアへの有機農業の技術移転を目指しています。

2014 年度 AMDA 野土路農場 収穫祭

10 月 11 日、AMDA 野土路農場の収穫祭を行いました。秋晴れの空の下、在大阪・神戸フィリピン共和国総領事をはじめ、新庄村長、新庄村議員の方々が来賓としてご出席くださり、AMDA スタッフ、支援者の皆様など約 60 名の方々とともに笑顔あふれる収穫祭となりました。

午前中には、野土路農場に実ったひめのもちの稲を、実際に参加者がカマをもって刈り取り、刈り取った稲をはで干しし、子どもから大人まで汗をかきながら収穫の喜びを実感しました。

収穫の後には、会場を新庄村有機農業サポートセンターに移し、式典と交流会が行われました。

式典では、来賓の方々からそれぞれメッセージをいただきました。フィリピン総領事からは、「AMDA の有機農業は、子どもたちの教育にも、大変素晴らしい取り組み。さらに農業研修生を通して、日本とフィリピンの有機農業の技術が向上していくことを願っています。」とメッセージをいただきました。また、来日していたフィリピンからの農業研修生より、簡単な研修報告などが

行われました。交流会では野土路ダックを使ったフィリピン風スープややしそば、農場産の野菜などを使ったパーベキューなどを食べながら歌と踊りで、大盛況となりました。



収穫した稲をはで干しする参加者ら

2014 年度 フィリピンからの研修生帰国

6 月から 11 月までの約 6 か月、フィリピンから農業研修生 2 名を新庄村と合同で招へいし、有機農業の相互研修を実施しました。

農業を使わない野菜作りと、アヒル農法での稲作を行っている AMDA 野土路農場の圃場を研修場所の中心とし、そのほかにも新庄村内外の有機農家や技術者の方々のほか、農業高校、農業大学校などにもご協力いただき、充実

した研修を行うことができました。



キノコ栽培の研修に参加した研修生 2 名

AMDA・新庄村合同プログラム 駐日外国公館などへ農産物を寄贈

12 月 1 日～ 19 日にかけて、11 の国と地域の 15 駐日外国公館への表敬訪問を行いました。アムダスタッフと新庄村議員・職員が訪問し、AMDA 野土路農場産のお米と新庄村の農産物を贈呈させていただきました。



パキスタン大使館で大使とともに

訪問時には、新庄村についての説明のほかアムダフードプログラムや、取り組んでいる有機農業などについての説明をさせていただきました。いずれの公館でも大きな関心を示してくださいました。

多くの方々からご寄付をいただきました。一部を紹介します。



入江洋文・西牧尚子ご夫妻

全日信販株式会社様

おかやま山陽高校様

AMDA 野土路米の取扱い

株式会社 晴富

【住所】岡山市北区平野 643-1

【電話】086-293-1711

AMDA 野土路ダック料理が食べられるレストラン

トラットリア ミズオチ

【住所】岡山市北区丸の内 2 丁目 12-27

【電話】086-234-1122

晴れ国ダイニング プロボスタ

【住所】岡山市北区中山下 1-9-12 1F

【電話】086-235-1377

きこにあ

【住所】岡山市北区新屋敷町 1-10-22

【電話】086-245-1122

Ristorante 収穫月 (みのりづき)

【住所】岡山県倉敷市西岡 277-4

【電話】086-424-6910

piatto nono

【住所】勝田郡勝央町勝間田 586-4

【電話】0868-38-1183

その他、AMDA 本部事務局へ直接お問い合わせいただければ、ご注文を承ることができます。

AMDA 野土路農場産のお肉や野菜を使ってみたいとお考えのレストランのオーナー様にはサンプルなどをお送りしております。詳しくは事務局までお問い合わせください。

TEL : 086-252-7700

FAX : 086-252-7717

e-mail:member@amda.or.jp